THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA HATSUKAICHI
広島廿日市ロータリークラブ 会報
2017年 9・10月号 No.410

◇◇◇ 本年度会長方針 ◇◇◇

「将来（これから）について語り合い、変化に対応しよう!」

例会日／毎週月曜日 12:30 ～ 13:30
例会場／広島サンプラザ　TEL (082) 278-5000
会　長／松野　正信　　幹事／上杉　昌幸

事務局
〒738-0015 広島県廿日市市本町５番１号
廿日市市商工保健会館 4F
TEL（0829）31-5490　FAX（0829）31-5491
E-mail ／ office20@h-hrc.com
URL ／ http://www.h-hrc.com/

第 953 回　広島サンプラザ　2017年９月４日

会長時間

会長　**松野　正信**

誕生祝

奨学金授与

ポールハリス･フェロー表彰

卓　話

「障害があるということ ～支援者の立場から～」

社会福祉法人交響理事長　**安部　倫久**　様

わたしのめを　さして
近藤益雄（こんどう･えきお1907～1964）
（なずな学園初代園長）

わたしのめを　さして　これなあにと　とえば
おじちゃんと　いう
わたしのみみを　つまんで　これなあにと　とえば
おじちゃんと　いう
わたしの　くちを　おさえて　これなあにと
とうても　やっぱり　おじちゃん　と　いう
そして　ふと　ちいさな　こえで　おじちゃん
すきよと　いった
ああ　わたしは　しあわせ

私の大好きな詩です。
ほとんどの交響のパンフレットのコピーは、「あなたに会えてよかった…そういうふうにおもい合える支援を」と載せています。それは、この詩にあるような「おもい」を大事にしたいとおもっているからです。
障害のある仲間たちとの日々は、彼らから「学ぶ」という言葉ではなく、「癒やし」という言葉でもない、言葉にはするには難しい「おもい」を抱くことがたくさんあります。
それにしても共感しよう、元気にいこう、希望をもとうとこころに抱く「おもい」を具体的な言葉にするのは、難しいものです。
障がいのある人の支援というのは、「できにくいことをできるようにする…」ということではなく、チャレンジしたり、悩んだりしながら頑張っている姿やその人の良さを感じることのできる感性をもつことなんだとおもいます。
と言いながらも実際には、制度上、これまでで最大の転換点とおもえる社会福祉法人制度改革への対応など常に振り回されている私たちがいます。さまざまな迷いが日々あるのです。
「昨日はなんでやすんだん…」「風邪なおった…」「誕生日じゃね　おめでとう…」「おらんあいだ寂しかった…？」「○○さんがおるとたすかるよ…」こんなお互いの存在を確かめ合う言葉が、明日もがんばろうという希望につながるとおもいます。
その命と存在を支え合う…「ともに生きる」ということとはどういうことなのか。これまでも、そしてこれからも試行錯誤を繰り返しながらその答えを探していきたいとおもいます。

第 954 回　石内ペノン　2017年９月11日

職場訪問例会

石内ペノン

広島市佐伯区五日市町石内6500-1

第 955 回　広島サンプラザ　2017年９月25日

会長時間

理事会報告

会長エレクト　**上杉　昌幸**

卓　話

「こころの共育」

学校法人神村学園　高等部 通信制課程 普通科 広島学習センター センター長(校長)
特定非営利活動法人 共育ファシリテーション プロローグ理事長

保田　隆　様

第 956 回　広島サンプラザ　2017年10月２日

会長時間

会長　**松野　正信**

今月は米山月間で本日は米山奨学生のリンさんが来られていますので、米山記念奨学会の紹介をしたいと思います。

日本が敗戦して７年後の1952年、東京ＲＣが再び戦争の悲劇を繰り返さない為に、国際親善と世界平和に寄与したい強い願いがあり、来日する外国人留学生に将来日本と世界を結ぶ懸け橋になって頂く事が目的で提唱されました。

それから瞬く間に日本全地区に広がり、1967年に財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立され、今年で50周年になります。

この事業は日本独自の合同プロジェクトで国際ロータリーでも高く評価されています。

最大の特徴は、「世話クラブ・カウンセラー制度」が有るという事です。

奨学金をお渡しするだけではなく、カウンセラーが日常生活の相談相手になったり、世話クラブの例会に出席してもらい、ロータリーへの理解や会員との交流で大学生活では得られない体験ができます。

今年度793人を受け入れ累計で19808人になり、民間の奨学制度で最大規模になります。当クラブはリンさんで７人を受け入れています。

卒業した学友は母国や日本で多数活躍されています。自国の政府要人や駐日大使の学友もおられます。またロータリアンになった学友は227人。学友を中心に発足したロータリークラブが台湾に２クラブ、日本に３クラブあります。奨学期間終了後もロータリーとの絆が切れない証拠だと思います。

リンさんは日本語教師を目標に研究されています。将来日中友好の懸け橋になって頂くようにお願いし、本日もその言葉をそえて奨学金をお渡ししました。

誕生祝

奨学金授与

卓　話

「グローバル化と我が国の外国語教育 －最近 20 年間の動向を踏まえて－」

広島市立大学国際学部教授

岩井　千秋　先生

今から約40年前、エズラ・ボーゲル氏が日本の行政や経済、それに教育の質の高さを『Japan as No.1』で絶賛し、80年代の日本社会はバブルに酔いしれます。ほどなくバブルは虚しくはじけ、後始末に日本社会全体が翻弄されるわけですが、その最中に、世界がネット社会へと移行したことは周知のとおりです。

この70年代後半からバブル期に至るまでを私は学生として過ごしました。当時は留学生を見かけることも少なく、留学する学生も限られていました。その頃(1975年)、「平泉・渡部論争」と呼ばれる激論が英語教育界を賑わせました。英語教育は「実用か教養か」を巡る議論で、明確な結論に至らないまま、やがて沈静化します。

そして時代はいわゆるミレニアム、節目の2000年を迎えます。空前の戦後経済成長の礎となった教育立国も、いじめだゆとりだと言っている間に金属疲労状態、こと英語教育に目を向けると、お隣中国や韓国に比べても完全に後塵を拝していることを思い知らされることになります。かつての平泉・渡部論争が虚しく感じられるほど、ネット社会は英語の実用性に振り子が引き寄せられます。その象徴が文科省による「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」(2002年)及び「同行動計画」(2003年)です。その後、英語以外の外国語教育は衰退の一途、一方で英語教育は実用という名の音頭に囃し立てられ、今日に至ります。小学校への英語教育導入、グローバル人材育成事業、英語入試改革など、すべてこの戦略構想にその原点が見い出せます。

さてその評価となると容易ではありませんが、いいこと尽くめではありません。卓話では、高等学校指導要領の改訂（2009年改訂、2013年実施）による「英語を英語で教えることを基本」とすることになった影響を経年的に調べた私の研究調査の結果を交え、英語を含む外国語教育の問題について考えます。そして、AI化が加速する次の世代に必要な外国語教育の方向性についてお話できればと思っています。

第 957 回　広島サンプラザ　2017年10月16日

会長時間

理事会報告

会長エレクト　**上杉　昌幸**

卓　話

自己紹介

山根　達則　会員

皆さん、こんにちは、山根達則です。生年月日は昭和24年１月19日生まれで、現在68才です。生まれは湯来温泉の１㎞ぐらい手前の、田布という所で、川と山がとてもきれいで、子供のころには勉強もせんと朝から日の暮れるまで､遊び廻っていました。現在､家もあり､92才になる母親もおり､約３反、皆が食べるだけ、米・野菜を作っており、農繁期には弟妹等、皆んなで集まり農作業をします。今年は９月で終わりました。

私は現在、廿日市市の佐方に住んでおり、近くに嫁いだ長女も住んでおり、２人の孫もいます。

会社は自宅から100ｍぐらい離れたところにあり、株式会社山根塗研と言います。私が創業者で40年になり、けっこう長く続いています。ちなみに来週の23日の月曜日に、廿日市市の商工会より操業40周年の表彰をしてもらいます。

職業は､塗装・防水工事を主体としており､リフォーム工事全般も行っております。

私自身、現在一線をしりぞいており、会長として、相談に乗っている状況です。

ロータリー歴について

ロータリークラブとのかかわりは、永井会員の紹介で入会させていただきました。

過去にそれとなく入会をすすめられていたのですが、ロータリークラブ等、私には敷居が高く、とてもできないと思って、うまくことわっていたのですが、ある日夕方突然会社にこられ、印を出しんさいと、なかば強引に入会させられました。

2000年７月３日付の入会で､現在17年目になります。

土居会長年度で、会員数最高で43名になり、大変ないきおいになりましたが、その後、会長経験者、幹事が同時に退会され、会員数も急速に減ってゆき、2005年の10周年行事の時は30名まで会員数がへったのおぼえています。

それ以後は、現在の会員数とあまり変わっていません。私も３年ぐらい頑張って、どさくさにまぎれ、退会しようと思っていたのですが、ロータリークラブの皆さんの温かいお付き合いで、今日まで17年も、つづいています。今後共よろしくお願い致します。

青木さんより、何か変わった経験談を話してくださいと言われ、なににしようかと考えました。

私の過去に行った心臓の手術のことを話します。

私は過去５度の心臓手術を行っています。１回目は14年前、心臓発作でＪＡ総合病院でカテーテル手術をし、２回目は、2013年に大動脈かい離で土谷総合病院にて。

３回目は、2014年に大動脈リュウ手術。

４回目は、それにともなう手術で引き続き、土谷総合病院にて。

また、５回目は、今年の７月に腹部大動脈リュウによる、カテーテル手術を行いました。

それらの手術を行う事となった状況は、１回目はゴルフ途中に、軽い心臓発作が起き、違和感をもっていたが、夕方、自宅の近くに飲みに行った帰りに、再度、発作が起きました。

また、自宅で10時ごろ、再び発作が来て、息が出来ないような苦しみはあったのですが、少し休むと、その場はおさまり、翌日、ＪＡ総合病院で検査をし、心臓の血管がせまくなっていることがわかり、右手よりカテーテルを注入し、これにより１回目は改善されました。

２回目は、2013年12月30日に、その年の仕事も終了し、例年は必ずといっていいほど、ゴルフに行っていましたが、この年、私の父も亡くなったこともあり、この年、初めて自宅におり、午前中片付けを済まし、昼から、湯来の母の所に帰ろうと予定し、昼食を食べている途中、突然、右の背中に、いままで経験したことのない様な、はげしい痛みが来ました。少し休むとおさまりましたので、横になってねていると、ちょうどめずらしく長男がおり、これは様子がおかしいということで、救急車を呼んでくれました。その時そのまま寝ていたら間違いなく人生は終わっていたと思います。そして、病院を探しましたが年末で、どこもあいていないということで、約10分ぐらいかかり、土谷総合病院に決まりました。

病院につくと、すぐＣＴに通され、心臓大動脈かい離と診断され、血管の内部の皮がはがれその間から血液が背中にもれ、非常に危険な状況にあり、緊急手術を受け、その前は意識があったが、気がついたのが３日後、１月２日でした。それから１週間、計10日、ＩＣＵにはいっていました。それから、一般病棟に帰りました。ＩＣＵの中での事は、あとから話します。

３回目の手術は、2014年で、定期的に毎月１回、土谷病院に通っており、１年ぶりにＣＴ検査をしたら、反対片の大動脈血管がふくれて６㎝以上になり、破裂の危険があるから手術を行った方が良いとのことで、12月13日に入院、18日に手術ということで調整しましたが17日になり、院長より、危険な患者が出たので、一週間、手術を伸ばしてもらえないかと、つまり、手術を替わってくれということでした。

忘年会などもあり、喜んで一時退院し、毎日飲み歩きました。アルコール等、血糖が上がったままの状況で、25日に手術をし、31日には、ＩＣＵより一般病棟に帰り、早く退院できるものと思っていましたが、血糖が上がったことにより、傷口がいえず、１月13日に再手術をし、メスを入れた時、ひどい事になっていたとの事。

担当医も、半分はあきらめていたのではないかと思いました。それから、その部分を除去。

抗生物質、悪い所も改善し、約１ヶ月以上、ＩＣＵにおり、２月の終わりに、一般病棟に帰り、３月の終わりごろおかげさまで退院しました。

５度目は、それから３年半、今年の５月に、ひさしぶりにＣＴ検査をしました。

そうしたら、腹部の大動脈が、5.5㎝以上になっていると、手術を考えた方が良いということで、今回は腹部大動脈を、カテーテルにより手術をするという、広島では事例が少なく、病院側から、手術事例を学会に提出してもよいか確認をされ、了承しました。

手術は、比較的楽で、約20日で、ＩＣＵに入る事も、リハビリもなく、無事退院しました。

現在、調子はいいです。

ＩＣＵの病室のことを話します。ベッド数は５台だったと思います。

ＩＣＵに入っていることは､半分死んでいる状況で､いわば生死をさまよっています。

左うでには６本、右うでには３本、首は１本の針がさされ、点滴を連続で注入し、症状が改善したら、１本づつはずしてゆき、２本ぐらいになると、一般病棟に帰ります。

ＩＣＵの中、生死をさまよう状況で、亡霊・幻覚に悩まされました。

その中、話せば長くなるのですが、いくつかいいますと、

①目をさまし、天井を見ると、壁の黒いしみの所から虫が出て来て、それがはげしく動く

あまりにも多くいるので気持ちが悪いので看護師さんになんとかしてもらうよう、たのみましたが、そん

なものはいないと言われ、幻覚だと思った。
②黒い所が、鉄の錆に見え、どんどん錆が進んでいくように見え、息子に錆止塗装をしなさいといったとの事です。
③川に船が出て行くのを見て、大いそぎ、船付場に走るのですが間に合わず、船に乗れなくなった夢をみました。船に乗れていたら、おそらく他の世界に行っていたと思われます。
④怪物（サンショウ魚のでかい物）がいっぱいいる暗い洞くつで、一か所だけ小さな穴がありはげしく追われる夢を見ました。そこの穴を通ると、あの世に行っていたと思います。
　私の体の全体的症状が重いときに、怪物はドス黒く気持ちが悪く、私の体が改善するにしたがい、怪物の色がうすく茶色になっていきました。
　この話は、のちに、ＩＣＵに入った人と話をしたら、その人も、同じようなものを見たといっていました。
⑤また、壁に血がふって来る状況が続き、原因を調べると、首の動脈にさした針から、体の中に血液が漏れており、それを直すことにより改善しました。この様に、ふつうでは見られないことが、生死の限界では、見られました。この状況をあとに残す為、不自由な状況にもかかわらず、紙に書いたのですが、あとで見たら、何を書いているのかさっぱり分かりませんでした。
　最後に、土谷病院での入院中は、１日がたつのも長く、気分も落ち込みます。
　毎日のように８階の食堂から平和公園、原爆ドームの方を見て、早く家にかえりたいと思いにかられ、もうここには来ないと心では考えているのですが、何回も来てしまいます。
　その上、毎朝、土谷の屋上のカメラでテレビに同じ光景が見たくないのに見え、入院生活を思いだします。
　終わりに、私の言う資格はありませんが、生活習慣病は、動脈硬化、内臓に徐々にダメージを与えます。血圧、血糖等に気を付け、おかしかったら、病院に行きましょう。
　それと、アルコールの飲みすぎには気を付けましょう。

会社勤め 40 年を振り返って

竹田　平　会員

働き始めて今年で丁度40年、今までウッドワンしか知らず、「変化」と言う言葉からほど遠い私ですが、今日は「会社勤め40年を振り返って」と言う題で、話をさせて頂きます。
　ＮＺ駐在時代、気心知れたＮＺ人から「竹田！ウッドワンは何度目の会社？勤めて何年？」と良く聞かれました。その度に「大学を卒業してからずーとこの会社」と返事すると、「かわいそうに、どこからも誘いがなかったのか。」と驚かれました。ＮＺでは、キャリアアップの為の転職を繰り返すことで地位と高い報酬を得るのが一般的で、私の様にそれをしないのは、能力がないか向上心がないと言うことになります。
　このように40年間ウッドワン一筋の私ですが、この会社を就職先として選んだのは「いつでもやめたい時にやめることが出来る会社」と言う理由でした。
　まず私の世代を認識して頂くため、同い年の有名人をあげてみますと、プロ野球では、大野、達川、江川、掛布、歌手では、郷ひろみ、西條秀樹、野口五郎、浅田美代子です。
　就職活動はカープの初優勝の翌々年の昭和52年。
　私の専攻は化学工学で、石油化学系の企業は第一次オイルショック（昭和48年）の後遺症で、採用は縁故で若干名と言う会社が殆どでした。幸い私は伯父のコネがあり、早々と化学メーカーへ内定していましたが、「伯父のコネで入った会社は簡単に辞めるわけには行かない」との思いが強く、「コネやしがらみが無くても採用してくれる会社」を探し、見つけたのが当時の住建産業でした。まだ株式上場の前で、予備知識を持たないまま入社試験を受け、最終面接で中本利夫会長と初めてお会いしました。当時、大学卒は営業職で、技術系を希望した私は「営業なら採用する」と説得されましたが、生意気にも「営業なら他の会社を探します」と拒否。のちのち、「こいつは面接で、大学での成績がもっと良かったら、こんな会社には来なかったと言い放った。」と、度々茶化されました。
　初めての海外生活は、昭和63年33歳の時、場所はアメリカウィスコンシン州。オーク（なら）材の調達が私の仕事で、北海道、東北地方から集め、足らない分はアメリカから原木として輸入し、輸入金額の約20％は輸送費でした。又丸い原木から製品になるのは40％で、残りは木屑。この木屑にも輸送費がかかるため、アメリカで原木の加工が出来ないかと工場を探して廻りました。何度目かにウィスコンシン州で目的にかなう工場を見つけ、従業員ごと一日いくらで工場を借りる契約を結んで帰国し、報告するや、「そんな逃げ腰のアルバイトじゃ成功せんよ！やるのなら本腰を入れてやらにゃあ！」と一喝され、即アメリカへＵターン。再交渉し、オーナー夫婦を責任者で雇用し会社を買収しました。他人にこの会社の立ち上げを任す訳にもいかず、クリスマスイブに家内と１歳、３歳の二人の子供を廿日市に残し成田空港から出発しました。今の様な便利なスマホは無く、弁護士、公認会計士、税理士等との交渉は、辞書を片手に元オーナー夫婦が英語から私の分かる英語への通訳で行いました。良い度胸をしていたと思います。数年後に、この夫婦をＮＺに招待した時、「ＮＺ人の英語は訛っていて半分わからない」と言った後、笑いながら「お前の英語はもっともっと大変だったけどな」と。ウィスコンシン州では－27度の寒さも経験しました。シカゴでは黒人のタクシー運転手に１＄札と間違えて100＄札をチップで渡し「私は泥棒ではない」と追っかけられたこともありました。４カ月余りでしたが、私にとっての最初の海外生活はみんな懐かしく、楽しい思い出です。
　34歳の平成２年から７年間は廿日市でＮＺ事業の立ち上げを担当しました。
　先日石内ペノンで河内会員からも紹介頂きましたが、建物の梁や桁に使う狂いの少ないＬＶＬと言う４㎜程度の薄板を30～40枚貼り合わせた木材の生産にニュージーランドで取り組みました。従来から集成材と呼ばれる３㎝前後の厚みの製材品を重ね合わせた木材と、その生産設備はありましたが、４㎜の薄板を40枚いっぺんに重ねて接着する設備は日本やヨーロッパを探してもありませんでした。何とか電子レンジの原理を応用し一度でプレスし接着することができないか。殆どの人が反対の中で、予備試験を重ね一部の賛同者とともにこの方式の採用を強行しました。
　設備が出来あがった頃、中本会長から「息子（今の社長）が、あのプレスのやり方ではうまく行かないと言っている」と。何で今更との思いで「５億円もかかっていますし、私もリスクを感じてやっています。何とか成功させます」と言ったところ、「お前のリスクやお金はどうでも良い！軌道に乗るまでの時間がもったいない。やるなとは言わん。その代りダメだと思ったら、すぐ設備をやり替えろ！」と。今でもこのプレス方式で生産していますが、私の後ろ盾をしてくれた先輩がのちのちに「今だから言えるがこの方式を採用すると決めた時、お前としばらくは苦労を共にする覚悟をした」と言ってくれました。30代半ばでこんな先輩

方に囲まれて仕事が出来た私はホントに幸せでした。
上海への進出は平成７年、40歳の時でした。上海、青島、天津、大連、北京の工業団地や港を何度か見て回りましたが、「中国の経済発展は南から北上しており、早いうちに内需が期待できる」と言う理由で上海に決定。工場用地は、当時道路事情が悪く空港から車で約３時間の所にありました。工場用地の最終確認に行った時、誘致した鎮長が、「この土地は、工場だけでなく日本からの駐在員の社宅を建てる事も特別に許可しますよ」と。同行されていた商社の本部長は「中本さん､是非そうさせて貰いましょう」｡中本会長は｢いや！止めておきましょう。今の中国は色々な面でまだまだ信用できず、いつ何が起きてもおかしくない国です｡そんな所へ社員とその家族を送ることになるので､住まいは安全で何か起こった時少なくとも24時間以内に国外へ脱出できるところにします」この言葉を聞いた時に､「ここまで社員のことを思ってくれていたのか」と今でも強く心に残っています。
この後、41歳～48歳までの６年半は家族を連れて愛知県豊橋市に赴任し、豊橋・蒲郡の工場長を務めました。48歳～52歳の４年間は家族を広島に帰し単身でニュージーランドに行き、そして日本に帰ってきて10年が過ぎました。
40年の会社勤めを駆け足で振り返りましたが､「変化を避けて40年同じ会社に勤めたのか」､「目の前の課題を追っかけていたら40年過ぎたのか」良くわかりません。
この間、私は外国人も含め多くの先輩や仲間との出会いがあり、かわいがって頂き、その人たちの考えや行動から多くの事を教わりました。そして、知らず知らずのうちに受け身ではありますが、大きな世の中の流れや価値観の変化について行きながら、40年間も同じ会社に勤めることが出来たのは回りの先輩方や仲間のお蔭だと感謝するとともに､私も後輩たちにとって､そういう存在になれるように残りわずかしか時間がありませんが頑張っていきたいと思います。
最後に、自分はこういう場は苦手ですし、業界等々の会合は尻込みして可能な限り避けてきました。ロータリークラブも最初は断りました。断ろうと思えば断り切れたと思いますが、怖いもの見たさの好奇心からか、年を取ったのか「滅多に経験することが出来ないことだから経験してみるか！」と一歩踏み出しました。この会に参加し、今日この場に立っていることそのものが、私にとっては大きな変化だと思います。
どうもありがとうございました。

第958回　広島サンプラザ　2017年10月23日

会長時間

会長　**松野　正信**

明日24日は第５回｢ロータリー世界ポリオデー｣です。
世界123万人ロータリアンの悲願である、ポリオ撲滅の歴史について話をさせて頂きます。
ポリオ（小児麻痺）は19世紀の終わり頃から大流行し、アメリカではポリオ感染で6000人が命を落とす年もあったようです。
ロータリークラブがポリオに取り組むきっかけは1979年フィリピンの子供600万人にポリオワクチンを贈るプロジェクトが始まりです。1988年には国際ロータリーとＷＨＯが「世界ポリオ撲滅推進活動」を立ち上げました。その頃のポリオ発症は125か国で35万件でした。
ポリオは有効な治療法は無く、ワクチンを投与し予防する事が最善です。
ワクチンはほんの60円で一人の命を救えます。継続的な活動により10年前の2007年には４か国1315件まで減少しました。
2009年からビル・メリンダゲイツ財団がポリオ撲滅推進に参画し、ロータリーからの寄付の２倍を上乗せして頂くようになり、累計で16億ドル、25億人の子供達にワクチンを投与されました。
現在ポリオ常在国はパキスタン・アフガニスタン・ナイジェリアの３か国で発症も５件になりました。
当クラブは今年度一人30ドルの寄付を会費請求させて頂いており150人分のワクチンになります。ポリオ撲滅まで継続していきたいと思いますので、皆様のご協力をお願いします。

グループ７ガバナー補佐　迫田勝明様　来訪

卓　話

「新生ドラゴンフライズ」

株式会社　広島ドラゴンフライズ
代表取締役社長／ゼネラルマネージャー　**浦　伸嘉**　様

第959回　広島サンプラザ　2017年10月30日

会長時間

会長　**松野　正信**

クラブビルダー賞　受賞

卓　話

「笑いの健康体操“ラフターヨガ”
～笑ってわらって　心も体もリラックス～」

ウォームハートネットワーク
主宰　**名本　啓子**　様

ごきげんいかがですか？　最近お腹から笑った事はありますか？　あなたの顔はほほえんでいますか？
ラフターヨガは笑いの健康体操です。笑うのにジョークやユーモア等の理由はいりません。簡単な４つのステップで作り笑いから自然の笑いになり、心も体も解放され周りの人と楽しくつながっていきます。

「あなたが笑うとあなたは変わる
あなたが変われば世界は変わる
笑って笑って　世界を平和に♪」
＜Dr.マダン・カタリア＞

地域・学校・企業・医療・各施設で世界的に笑いの健康体操の輪が広がっています。
先ずはご体験ください。

＜30分メニュー＞
①ごあいさつ・笑いの効用（５～10分）
②笑いのエクササイズ（15分）
③クールダウン・おわりに（５分）

活動報告

第３回カラオケ同好会
2017年9月14日
デュエット

９月14日第３回カラオケ同好会を開催しました。当日はカープ優勝があるのではと会話も弾みました。そして、この度は、清水さんと中井さんの奥さんが初参加でした。
噂では聞いていましたが、中井さんはジャズ教室に行かれているとの事で、歌声に全員大変感動を覚えました。また、藤岡さんにはエレキの演奏もして頂き終了時間を30分延長して頂くほどでした。そして最後に、「クリスマス例会」では楽器などを持って全員でステージに上がって演奏出来たらいいねという話が出ていました。楽しい時間を有難うございました。次回は11月の予定です。皆様のご参加心よりお待ちしております。
（石原）

水保全活動　御手洗川清掃
2017年10月1日

これまでの奨学生の生活で得たものや、日本留学の成果などについて

2017学年度米山奨学生　凌　巧

2017年４月から、米山記念奨学金に恵まれ、学業に専念することができるようなりました。この感謝の気持ちは言葉ではとても表現できません。最初は、「こんなに高額な奨学金をもらって本当に良いのかな」と多少疑問を持っていました。しかし、ロータリーや奨学生の皆さんと接触すればするほど、その疑問の答えがだんだんとわかるようになってきました。月に一回で例会に参加させていただき、クラブの皆さんと話したり興味深い卓話を聞きたりすることにより、ロータリーとの絆はどんどん強まりましたし、これからももっと強くなっていくと信じています。６月に岩井先生、梶田さん、二村さんと一緒に食事した際に、梶田さんが仰った言葉が深く印象に残っています。
「ロータリーは奨学生たちに恩返ししてもらうために、みんなを応援しているわけではない。そのかわり、将来周りに助けを必要とする人がいたら、自分の力で応援してあげてほしい。」
この一言に私は非常に感動しました。「これこそロータリーなんだ」と。梶田さんは私の持っていた疑問に完璧な答えを出してくださいました。現在は未熟な私ですが、自分なりに努力して、いつか誰かの力になりたいです。それもまたロータリーの奉仕の精神を継いでいる証明になると思います。
私は応用言語学を専攻としていますが、マンガを日本語の授業に取り入れることに興味を持っています。現在は中国人日本語学習者にとって非常に難しいとされている日本語のオノマトペに焦点を絞って、マンガを活用することにより、その難しい現状を改善することに取り組んでいます。現在は、まだマンガに出現するオノマトペについて分析している段階ですが、この研究はとても意味のあるものだと信じています。そして、将来は日本語の教師になり、自分の研究成果を教育現場に結びつけられるように尽力します。